

氏名	相良 翔	部署	社会福祉子ども学科	職名	助教
研究分野	犯罪社会学、福祉社会学、医療社会学、司法福祉論				
学位	博士（社会学）				
学歴	2011年3月 上智大学大学院総合人間科学研究科 社会学専攻 博士前期課程 修了 2018年7月 中央大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程 修了				
経歴	2011年4月～2014年3月 更生保護施設 補導員				
所属学会（役職）	ヨーロッパ犯罪学会, 日本社会学会, 日本犯罪社会学会, 福祉社会学会, 日本社会病理学会, 日本保健医療社会学会, 関東社会学会				

### 【2020年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	社会福祉士国家試験過去問解説集2020	共著	あり	中央法規、603ページ	一般社団本日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集（担当：第32回試験の間147および148の解説（更生保護制度）：190-191）	2020.5
2	支援と物語（ナラティブ）の社会学：非行からの離脱、精神疾患、小児科医、高次脳機能障害、自死遺族の体験の語りめぐって	共著	あり	生活書院、217ページ	水津嘉克・伊藤智樹・佐藤恵編著（担当：第1章「贖罪の脚本」は頑健な物語たりうるか—ある更生保護施設在所少年の語りからの考察：31-59）	2020.6
3	国際自己申告非行調査(ISRD)研究報告書——2019年度実施調査の概要と基礎的分析	共著	なし	ISRD-JAPAN実行委員会、238ページ	ISRD-JAPAN実行委員会(担当：148-163)	2020.12
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	ダルクと支援の専門知——支援に関する専門資格を取得したスタッフに焦点を当てて	単著	なし		ソーシャルワーク研究、46、33-38	相良翔
2	司法領域における支援専門職の役割形成	単著	なし		青少年問題、68(681)、72-77	相良翔
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	ISRD3実査において浮かび上がった課題	単独		日本犯罪社会学会第46回大会、オンライン	相良翔	2020.10
2	薬物処遇重点実施更生保護施設において勤務する支援専門職の役割形成	単独		第18回福祉社会学会大会、オンライン	相良翔	2020.11
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省: 科学研究費補助金（基盤研究C）			批判的犯罪学の観点をふまえた非行からの離脱過程に関する研究	研究分担者	~2023.3まで
2	文部科学省 科学研究費助成事業（若手研究）			更生保護施設に勤める支援専門職の役割形成の要因およびプロセスに関する質的研究	研究代表者	~2023.3まで
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		

1	医療社会学	○	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療社会学における基礎的な理論や概念について講義し、医療について批判的に検討するための基礎的な能力を養成した。</li> <li>・オリジナルテキストと動画資料も用意して、オンデマンド型で展開し、受講しやすい環境をつくることを心掛けた。</li> <li>・疑問や質問についてもリフレクションペーパーなどを通じて随時聞き取り、講義に活かした。</li> </ul>
2	現代社会と福祉	○	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉学における中核的な理論や概念について発展的な講義を行い、現代社会における福祉の課題について論理的に考察する能力を養成した。</li> <li>・オリジナルテキストと動画資料も用意して、オンデマンド型で展開し、受講しやすい環境をつくることを心掛けた。</li> <li>・疑問や質問についてもリフレクションペーパーなどを通じて随時聞き取り、講義に活かした。</li> </ul>
<b>(2) 演習</b>				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ソーシャルワーク演習Ⅲ		15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークに関する演習科目の担当者として関わった。</li> <li>・グループディスカッションやロールプレイに対して、オンラインで行うことを考慮しながら、適宜助言・指導を行った。</li> </ul>
2	ソーシャルワーク演習Ⅳ		15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティアプローチに関する演習科目の担当者として関わった。</li> <li>・学生のグループ活動が円滑になるように、オンラインで行うことを考慮しながら、適宜助言・指導を行った。</li> </ul>
3	社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ	○	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪・非行などの社会問題をテーマにした論文の輪読を、オンラインで行うことを考慮しながら、行った。</li> <li>・卒業論文の執筆に向けた準備報告も、オンラインで行うことを考慮しながら、行った。</li> </ul>
4	社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ	○	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文について、オンラインで行うことを考慮しながら、グループ討議を行った。</li> </ul>
<b>(3) 実習</b>				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ソーシャルワーク実習Ⅰ		2021.2~3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインにおける実習を準備・運営した。</li> </ul>
2	IPW実習	○	2020.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域担当教員として、それぞれのグループでのオンライン実習が円滑に進むように環境整備や助言を行った。</li> </ul>
3	ソーシャルワーク実習事前指導Ⅱ		2020.4~5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習経験をもとに学習をより深めるために、オンラインで行うことを考慮しながら、準備・運営した。</li> </ul>
4	ソーシャルワーク実習事前指導Ⅰ		2020.10~2021.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に必要な知識や技能の習得のため、オンラインで行うことを考慮しながら、授業準備や資料作成を行った。</li> </ul>
<b>(4) 論文指導</b>				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2020.4~2021.2	主指導 5名	副指導 名
2	修士論文		主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 名
3	博士論文		主指導（指導教員） 名	副指導（指導補助教員） 名
<b>(5) その他</b>				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	国家試験における学習相談	2020.4~2021.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験受験者に対して、学習のアドバイスを行った。</li> <li>・『国家試験対策応援講座』を1回担当した。</li> </ul>	
<b>4. 社会貢献活動</b>				
<b>(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師</b>				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	該当なし			
<b>(2) 国、自治体、学術団体等における委員等</b>				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	BLUECROSS MOVEMENT（非行少年たちの社会的自立支援のための運動）	実行委員		任期なし

2	日本犯罪学会	本部事務局会計部委員 (16期)	~2020.10
3	日本犯罪学会	本部事務局会計部常任理事 (17期)	~2023.11
4	日本社会病理学会	研究委員会理事	~2022.9
5	日本社会病理学会	『現代の社会病理』編集委員会 専門委員	~2020.8
6	日本社会病理学会	優秀報告賞選考委員会	~2022.9
7	日本保健医療学会	第47回日本保健医療学会大会サポーター	~2021.5
8	日本保健医療学会	編集委員会 査読委員	~2021.3
9	犯罪・非行を研究する若手研究者ネットワーク	キャリア担当役員	~2021.3
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
1	刑事事件弁護士ナビ「違法薬物で罰せられる薬物四法とは   依存症回復は可能？」	「薬物犯罪の再犯防止のために周り（家族とそれ以外の人たち）ができることはありますか？」という質問へのコメント	2020.11
(4) その他			
	項目	相手方等	内容
1	該当なし		
5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	学生支援	4年次学年担当	~2021.3
2	学科等における委員会等	スタッフルームの運営	~2021.3
3	学科等における委員会等	公立大学協会社会福祉学系部会連絡会 担当	~2021.3
4	全学的委員会及びセンター業務等	IPW実習科目責任者会議	~2021.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	日本社会病理学会 研究奨励賞	日本社会病理学会	2020.6
1	日本犯罪学会 奨励賞	日本犯罪学会	2020.11
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			